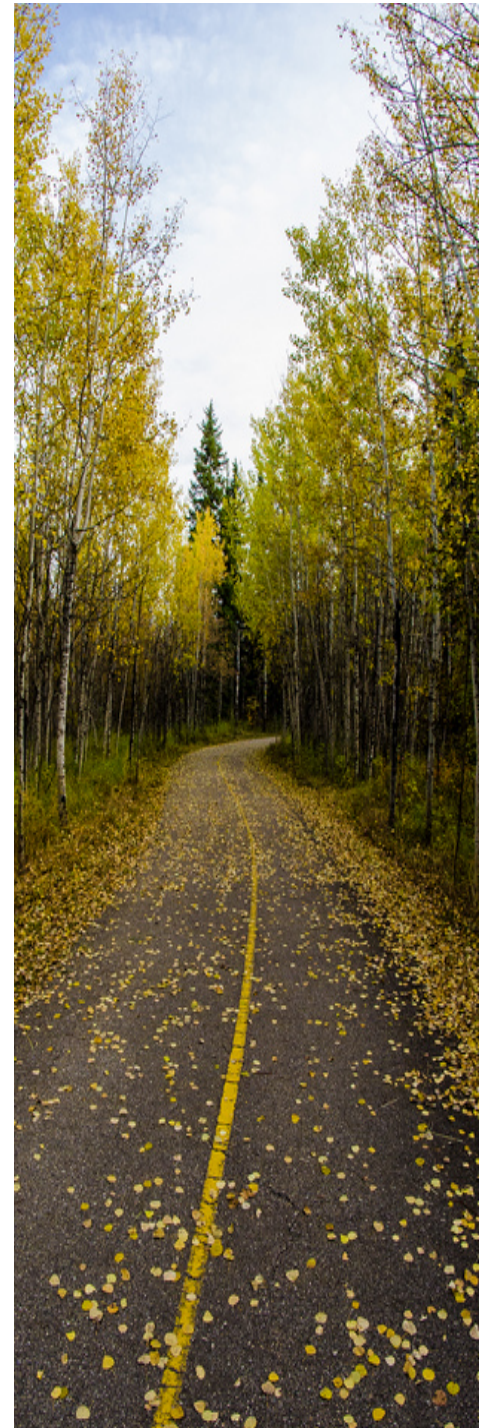


哲学を専攻しない学生に 哲学を教える 一道を示す十二の言葉

スティーヴン・パルムクィスト

2019年5月



哲学とは何か？

問題: 哲学概論を受講している、哲学を専門としない学生は、簡潔な定義を必要としている。

「哲学」を定義する二つの道

1. 哲学的に考えることの課題・目的を分析する
2. 哲学するという経験を総合する

第一の道

－ 哲学を定義するためのパラダイムの分析：
哲学は自己定義的である。どうしてだろうか？

第一の道：

1. 学問分野を定義することは哲学的である

- 自己定義という課題は本質的な哲学的課題である：ソクラテスの「汝自身を知れ」
- 歴史とは？芸術とは？物理学とは？
 - これらの問いは問われた分野自体ではなく、歴史の哲学、芸術の哲学、物理学の哲学において扱われる。

2. 哲学という分野内における自己定義

- 哲学は自己定義の課題がその分野内で扱われる唯一の学問である。
 - 哲学を定義することは哲学の（第一の）主題である。
 - 他の分野ではそうではない（自己定義を具体例で解説できるとしても）。
- 参考：ソクラテスの有名な格言「吟味のない生は、生きるに値しない」。これは本当に真実であるか？
 - ソクラテスの格言は、人々に自己定義（または「自己認識」）を通して人生の意義を深めるように促す、修辞的な道具である。

3. 自己理解は本質的に哲学的である

- 哲学することは、それが適切になされるならば、人の自己理解を深める。
- 哲学はそのようなものなので、哲学の課題は心理学の核心的課題と重なる。この重複を私は「愛魂」（“philopsychy”）と呼ぶ。
[訳注：和訳は中国語訳「爱灵魂」（愛靈魂）を参照]
- 「愛魂」は学問的哲学（“philosophy”）と学問的心理学（“psychology”）を組み合わせる。これらの学問は、今日では、しばしば、より客観的（「科学的」）な目標を持つことによって、元来の核心的目標から離れてしまっている。

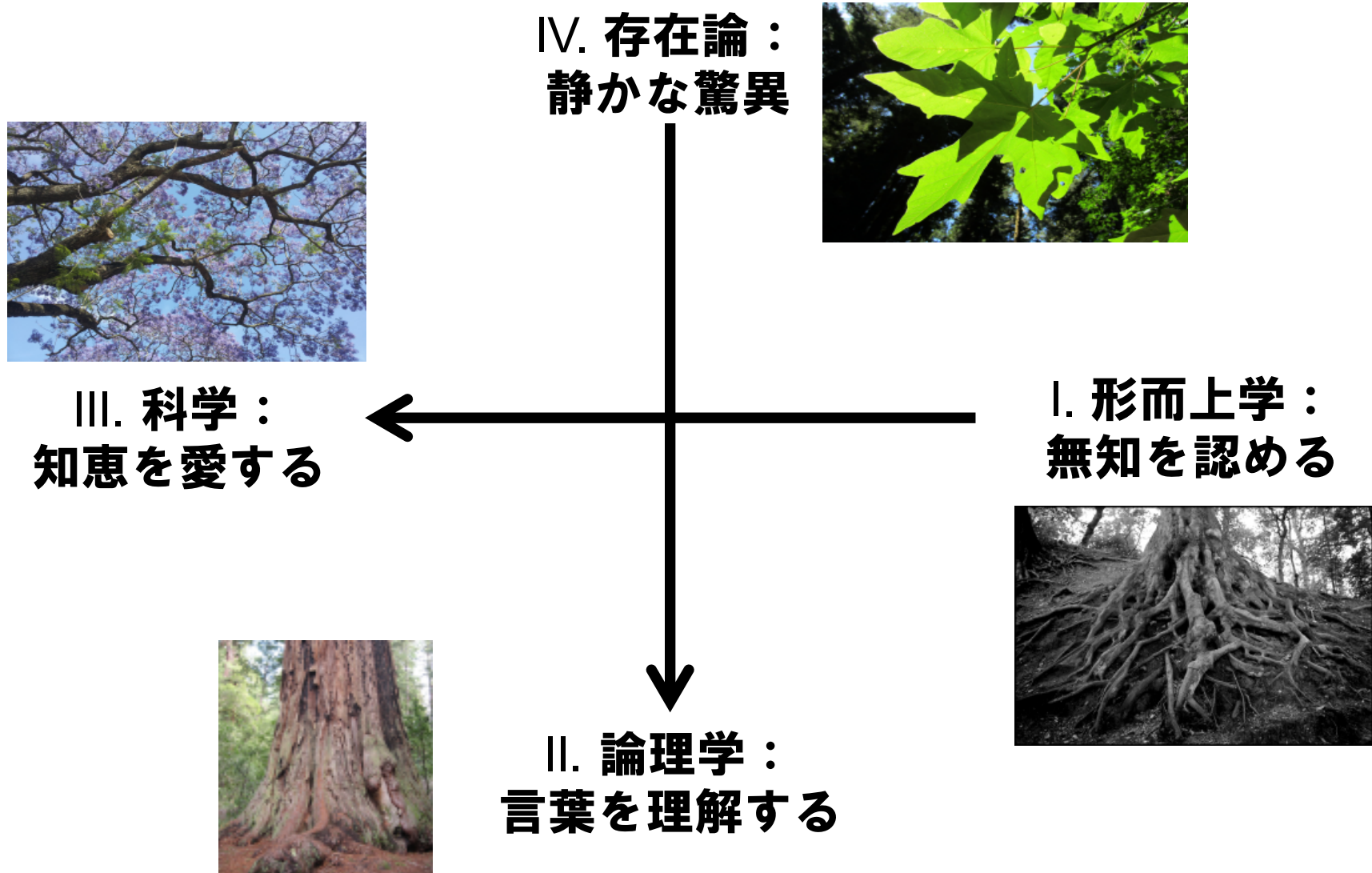
4. 自己定義は（逆説的に） 自己認証である

- 重大な問題：一般に哲学者の間には哲学をいかに定義するかについて意見の相違がある。
- 私の定義は「何でも構わない」ということを示唆するだろうか？
 - 否：人格としての誠実性がみられない場合はダメである：自分の妥当の感覚と衝突していないだろうか？
 - 参考：サルトルの「自己欺瞞」という考え方：他の誰かの自己理解を単にまねているかぎり、私たちは哲学していない。
 - 真の哲学は究極的な自己価値を最大化する。

第二の道： 導き手となる十二の言葉

- *The Tree of Philosophy* [『哲学の木』]
(Hong Kong: Philopsychy Press)
- 導きとなる神話：「哲学は木であり、その名を哲学という。」：
 - 根、幹、枝、葉
 - 形而上学、論理学、科学、存在論
- 同プロセスの果実は洞察である。

哲学の四つの分野と 哲学することの目的



I. 形而上学：無知を認める

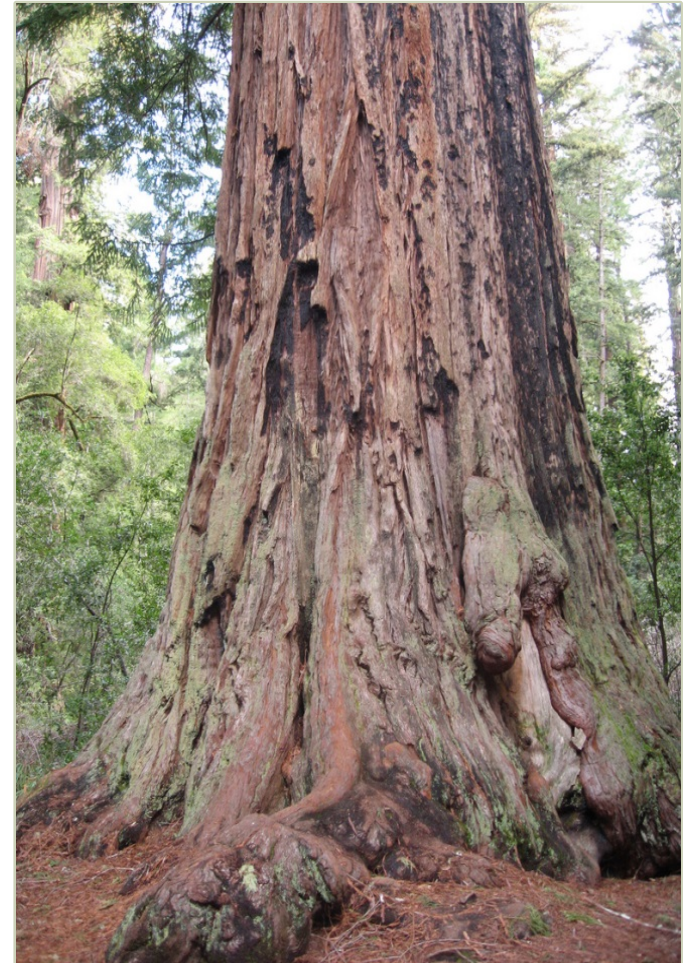
- ソクラテスの洞察：賢者とは人間は賢くないということを知る者である。
- プラトンの観念論 vs. アリストテレスの实在論：根を掘り出すための二つの競合する試み。
- デカルトの二元論は問題を倍加する：私たちは精神的現実と物理的現実の双方があるがままに知っているという。
- 形而上学はカントによって成熟を迎える：カントは明確に知と無知の境界を定義する。



形而上学：根

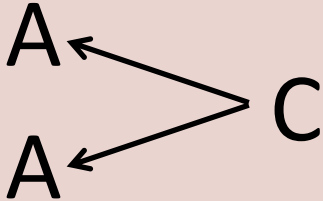
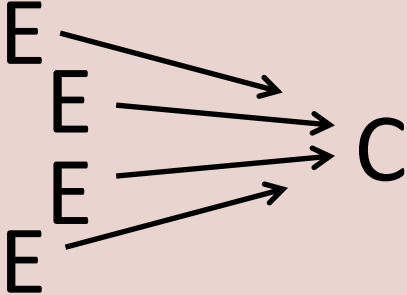
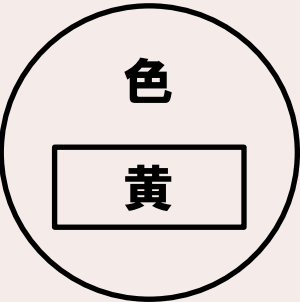
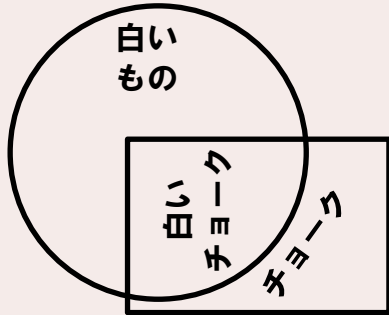
II. 論理学：言葉を理解する

- 1. 分析と総合の区別の三つの応用
- 2. 言葉同士の形式的関係を可視化するための実践的手段としてのマッピング
- 3. 二十世紀哲学の三つの形において言語は中心な役割を果たしている：分析哲学、実存主義、解釈学的哲学



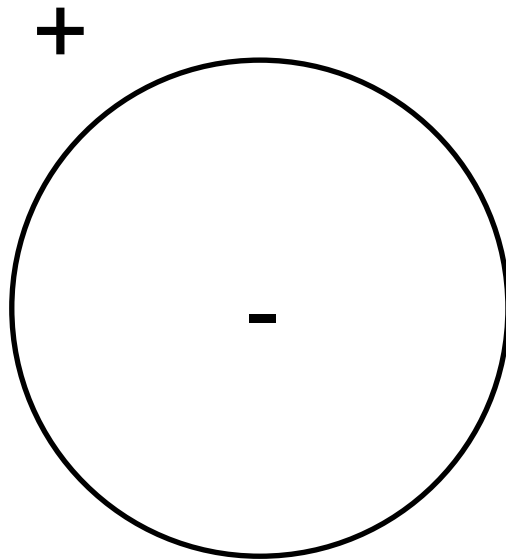
論理学：幹

分析的論理 vs. 総合的論理

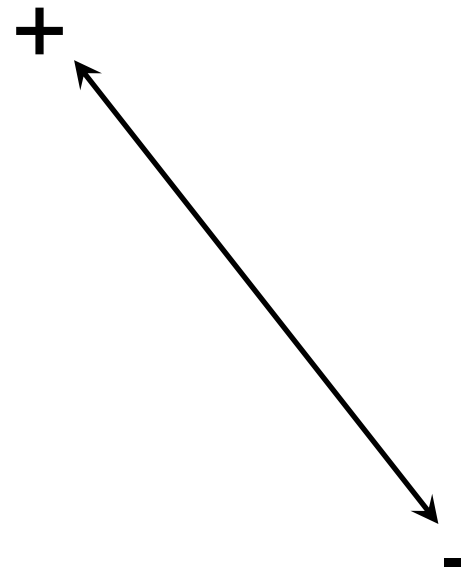
	分析的	総合的
論証方法	演繹： 	帰納： 
命題の型	「黄は色である。」 	「このチョークは白い。」 
論理の種類	基本法則： 同一性： $A = A$ 無矛盾： $A \neq -A$	基本法則： 非同一性： $A \neq A$ 矛盾： $A = -A$

論理の幾何学： 1LAR

(1LAR = “first level analytic relation” [第一レベル分析的関係])



境界を定めるものとして

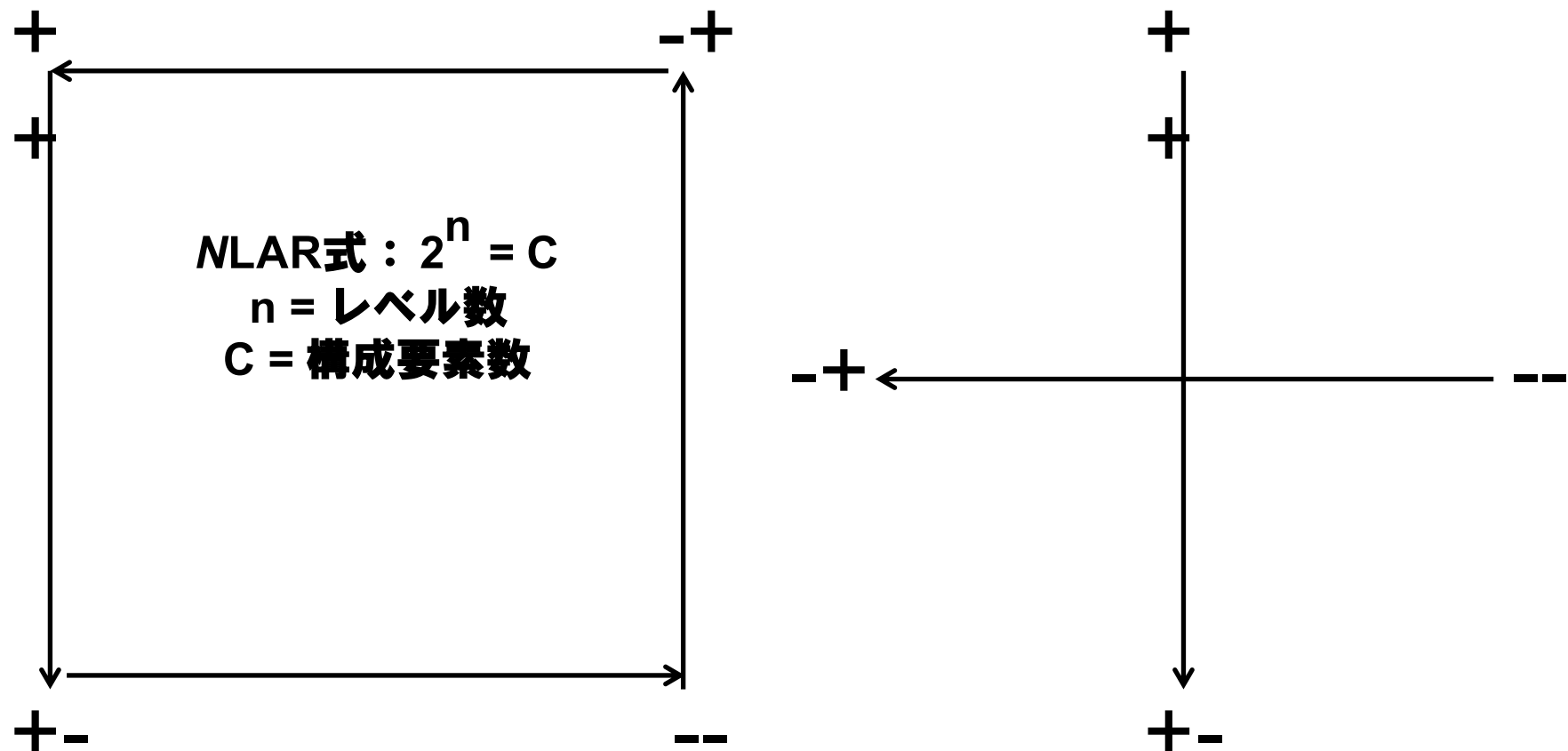


対極として

1LARをマッピングする二つの道

論理の幾何学： 2LAR

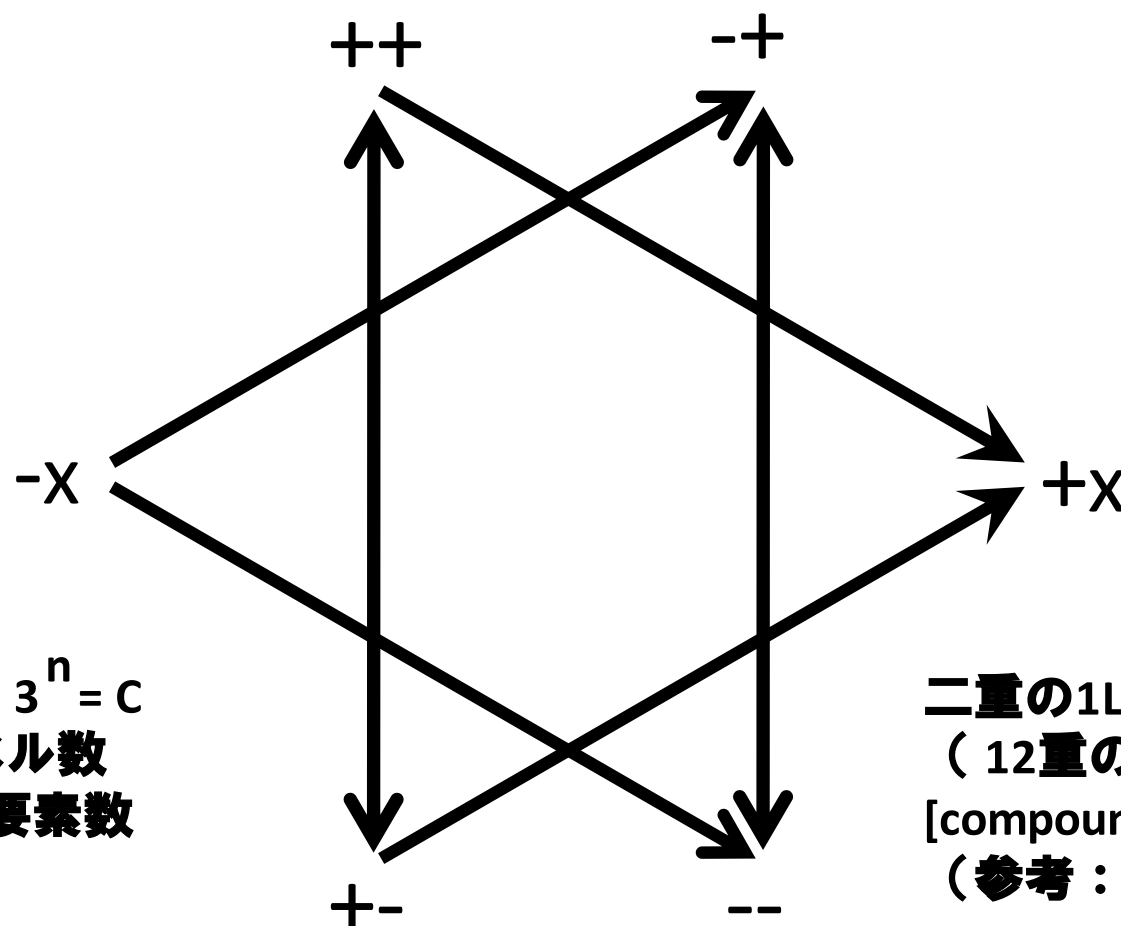
(2LAR = “second level analytic relation” [第二レベル分析的関係])



2LARをマッピングする二つの道

六芒星にマッピングされた 二つの1LSR

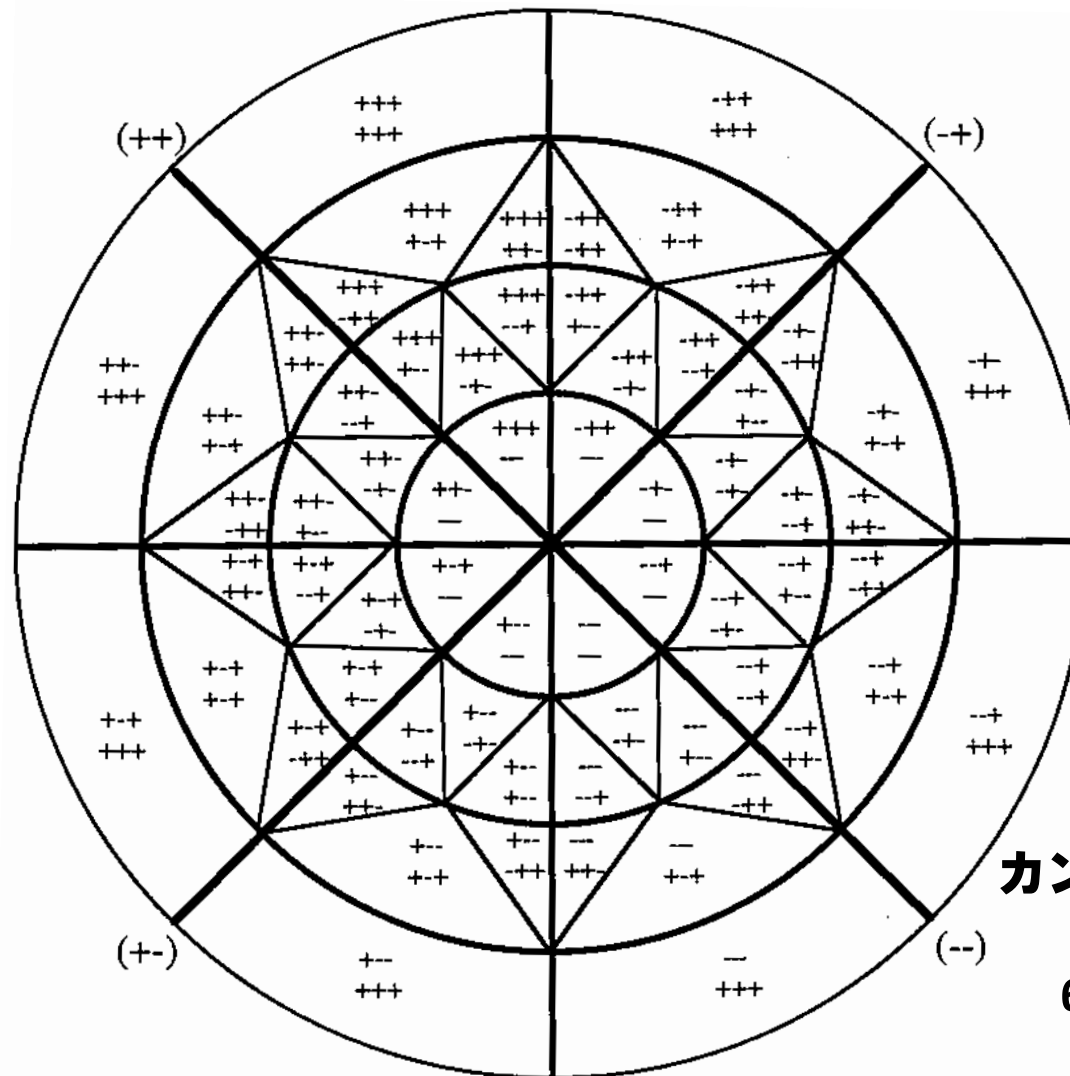
(1LSR = “first level synthetic relation” [第一レベル総合的關係])



NLSR式 : $3^n = C$
n = レベル数
C = 構成要素数

二重の1LSRが二つで12CR
(12重の複合關係
[compound relation]) となる
(参考 : カント)

6LARにマッピングされた易経

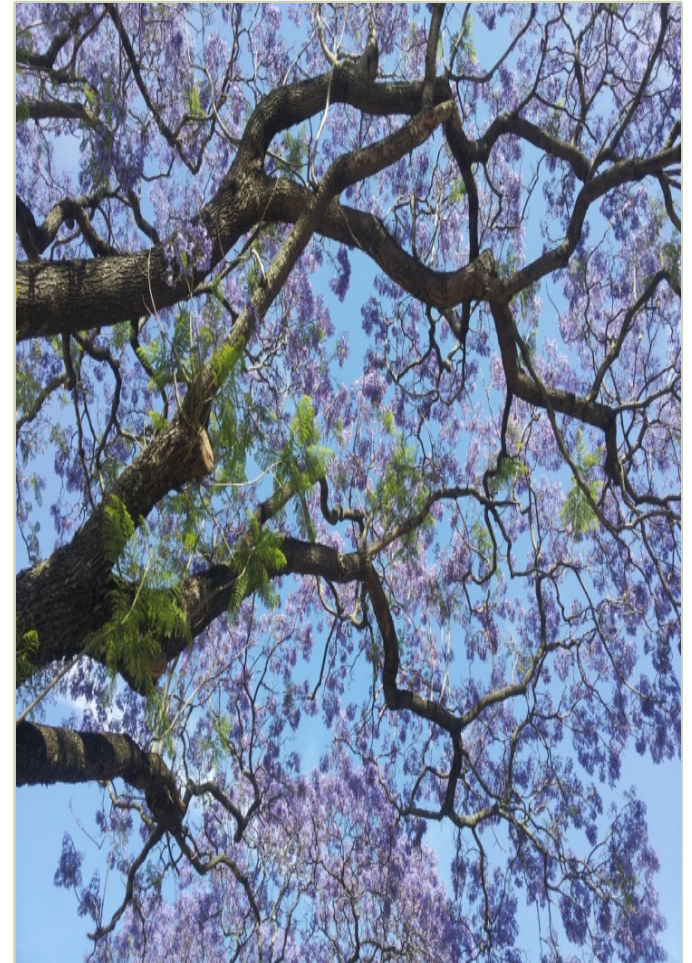


カントとの比較のための
別のマッピング

$$64 = 4 + 12 + (4 \times 12)$$

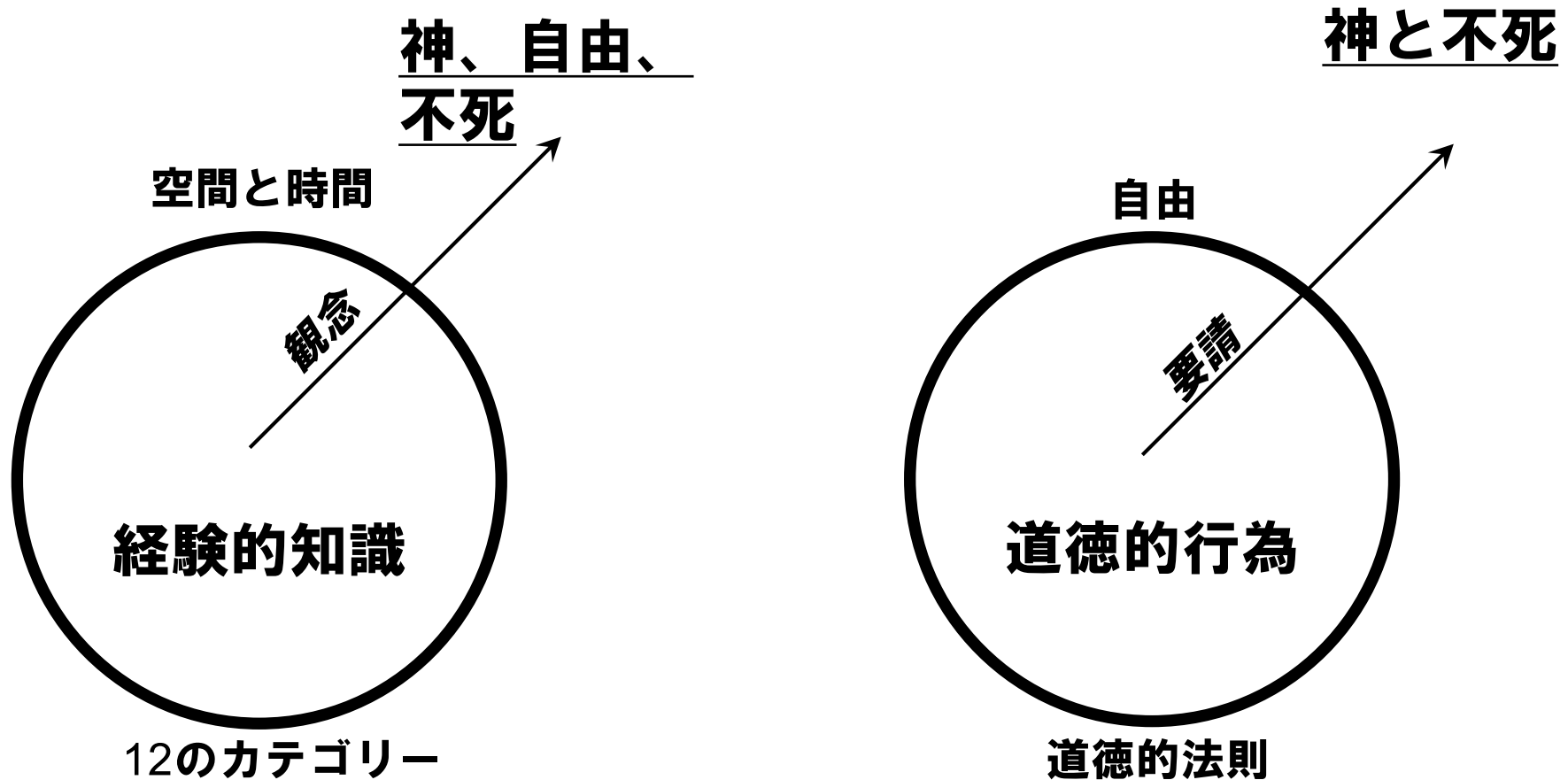
III. 科学：知恵を愛する

1. 可知の領域としての科学（“*scientia*” = 知識）。
2. 人間の思考のあらゆる分野における可知と不可知の境界をいかに同定するかを知ることとしての知恵。
3. 三つの例：科学哲学、道德哲学、政治哲学



科学：枝

カントの理論的見地 vs. 実践的見地における境界条件



問い：制限 (*Schranken*) vs. 境界 (*Grenzen*)はどこにあるのか？

IV. 存在論：静かな驚異

- 1. (総合的な) 意味の究極的根拠としての静寂。プラトン：「哲学は驚異から始まる。」
- 2. この究極的根拠を説明しようとして言葉（参考：総合的論理）を使う場合には矛盾は不可避（歓迎する）。
- 3. 不可解なことの体験が究極的な目的である：美、愛、宗教、不安、死など。



存在論：葉

Books by S.R. Palmquist

Three textbooks for teaching non-majors (translated into Chinese as the “Philopsychy” trilogy)

- *The Tree of Philosophy: A course of introductory lectures for beginning students of philosophy*, fourth edition (Philopsychy Press, 2000 [1992]). Also in Chinese translation (Guangxi Normal University Press, 2010).
- *Dreams of Wholeness: A course of introductory lectures on religion, psychology and personal growth*, second edition (Philopsychy Press, 2008 [1997]). Also in Chinese translation (Guangxi Normal University Press, 2010).
- *The Waters of Love: A course of introductory lectures on love, sexuality, marriage, and friendship* (Philopsychy Press, 2003). Also in Chinese translation (Guangxi Normal University Press, 2010).

One book on the theology of politics

- *Biblical Theocracy: A vision of the biblical foundations for a Christian political philosophy* (Philopsychy Press, 1993).

Four scholarly monographs on Kant

- *Kant and Mysticism: Critique as the Experience of Baring All in Reason's Light* (Lexington Books, forthcoming 2019).
- *Comprehensive Commentary on Kant's Religion within the Bounds of Bare Reason* (Wiley-Blackwell, 2016).
- *Kant's Critical Religion: Volume Two of Kant's System of Perspectives* (Ashgate, 2000).
- *Kant's System of Perspectives: An architectonic interpretation of the Critical philosophy* (University Press of America, 1993).

Five edited anthologies/translations relating to Kant

- *Kant on Intuition: Western and Asian Perspectives on Transcendental Idealism* (Routledge, 2018). 20 essays.
- *Cultivating Personhood: Kant and Asian Philosophy* (Walter de Gruyter, 2010). 67 essays.
- Introduction to: *Religion within the Bounds of Bare Reason*, tr. Werner Pluhar (Hackett Publishing Company, 2009).
- *Kant and the New Philosophy of Religion* (Indiana University Press, 2006). 12 essays; co-editor Chris L. Firestone.
- *Four Neglected Essays by Immanuel Kant* (Philopsychy Press, 1994). Edited translations of four essays by Kant, supplemented with several supporting essays.

Path, courtesy Colby Stopa

<https://flic.kr/p/guDtn>

Furrows, courtesy sszdl

<https://flic.kr/p/dhh1b9>

Roots, courtesy Steve Garry

<https://flic.kr/p/2RssAw>

IMG_1205, courtesy Simon Davison

<https://flic.kr/p/4ta3rJ>

Jacaranda tree in full bloo, courtesy vijay chennupati

<https://flic.kr/p/buJZ4d>

Leaves, courtesy Pug50

<https://flic.kr/p/9V9oaA>

Photo
Credits